

# 基本構想

# 第1章 大和郡山市がめざすまちの姿

## 1. 将来像

本市は城下町として発展し、市民生活において歴史・文化を身近に感じながら、安心して暮らせるまちづくりを進めてきました。

市民のまちに対する愛着は高い水準を維持しており、定住意向は高まりつつあります。しかし、日常生活において個々のライフスタイルは多様化しており、また目まぐるしく変化する時代への対応も求められています。

そのような状況の中、今ある豊かな自然や歴史・伝統を後世につなぎ、大事にしながら新たな価値を生み出すことが重要です。

その新たな価値の創造に市民全員で取り組むことによって、活気のある、価値の高い、城下町を守っていくことにつながります。

そういったまちの創造に、様々な世代の市民はもちろんのこと、仕事や学業で本市に来る人、観光で来訪する人、本市を離れても応援してくれる人など、本市に関わる様々な人々（関係人口）にとって、自分らしく過ごせる場所、応援したくなる場所となるよう、以下の将来像を設定します。

大和郡山市 将来像

希望と誇りをつなぎ、  
やまとおおりやま  
新たな価値を生み出す元気城下町

## 2. 基本目標

将来像「希望と誇りをつなぎ、新たな価値を生み出す<sup>やまとこおりやま</sup>元気城下町」を達成するため、以下の3つの目標を設定します。

### 目標1 新たな価値やこれからの大和郡山の誇りにつながるまちづくり

時代の変化に適切に対応しながら、より質の高い生活を誰もが感じることができるまちを市民や企業、団体など、様々な主体とともに創り上げていきます。

### 目標2 みんなが過ごしたくなる安心できるまちづくり

生まれる前から最期まで、誰もが生涯にわたって安心と安全を感じながら、ともに暮らすことのできる共生のまちづくりを進めます。

### 目標3 まちが育んだ価値を知り、みんなが愛着を持ち、応援したくなるまちづくり

郡山城をはじめとした、本市の歴史や文化、産業、観光などを広く市内外に発信することで、市民も市外の人でも本市に対する愛着を高めつつ、「大和郡山ファン」づくりを進めていきます。

また、本市を構成する様々な資源を大事に、守り続けていきます。

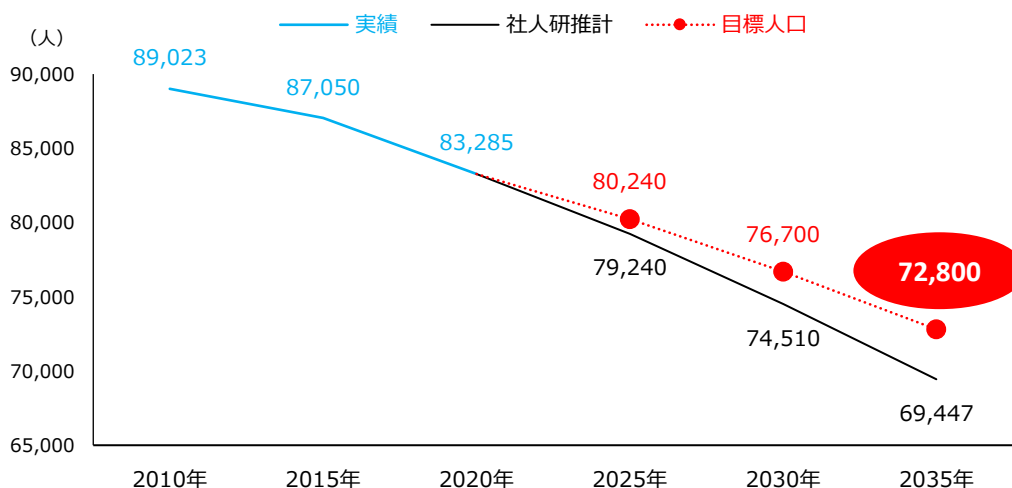
## 第2章 将来人口

国立社会保障・人口問題研究所による将来推計（令和5年推計）では、5年区間で約4,000～5,000人規模で人口が減少し、2050年で54,141人になると推計され、今以上に少子高齢化が進むと予測されています。

持続可能なまちを維持し続けていくためにも、人口減少を抑制していく必要があります。

本市は近年、転入者数から転出者数を引いた社会増減は均衡しています。年代別にみると、特に40歳以下の年代の転入が多くなっています。

このように周囲から選ばれるまちづくりを進めるとともに、高い定住希望を維持することによって、人口減少を抑制していきます。



## 第3章 土地利用構想

本市の将来像の実現に向け、居住、産業、歴史文化、自然環境といった多様な地域資源を、適切に配置・活用していくことが必要であると考え、土地利用構想を設定します。

### 1) 現状と課題

本市は、貴重な歴史・文化資源を有する奈良県北部の大和平野に位置し、大和川水系の佐保川、富雄川が南北に流れています。

また、JR 西日本と近畿日本鉄道が南北に縦断し西名阪自動車道や国道 24 号・25 号などを基軸に道路網が構成され、京奈和自動車道の供用・延伸も進み、大和まほろばスマート IC や郡山 IC、郡山下ツ道 JCT などが供用されている広域的な交通条件に恵まれた地域です。

市域の北部は奈良市と接し、郡山城の城下町を中心とした中心市街地が広がり、南部は昭和工業団地をはじめ広域交通の利便性を活かした産業と農業が広がっています。

東部は天理市へと連続している農風景の中に、住宅や産業施設が溶け込み、西部は矢田丘陵を背景に昭和 30 年代後半より開発された住宅地が広がっています。

今後、着実に進む京奈和自動車道路の延伸によりますます広域的な交通条件が向上するとともに、リニア中央新幹線の名古屋～大阪間の構想の具体化に向け、中間駅設置の提案も行われています。

このように、次世代の可能性にチャレンジする、魅力的で積極的な施策を進めつつも、将来世代の負担を少なくするまちづくりに取り組むことが求められます。

### 2) 基本理念

広域的な交通体系が整備される中、農地や山林などの自然を保全しつつ、本市を取り巻く環境の変化をその時々で的確に捉え、まちの活力を生み、持続的な発展を可能とする秩序ある土地利用を進めていきます。

また、高齢化・人口減少社会において、市民の利便性の維持・向上を図りつつ、環境負荷の少ない生活様式や地域社会を維持する財政的負担の少ないまちをめざすため、本市に適したコンパクトなまちづくりを進めていきます。

### 3) 取り組み方針

以上の基本理念のもと、本計画期間において、次の土地活用を推進します。

- 県や関係する鉄道会社、地元住民とともに賑わいを創造する中心市街地の再生
- 周辺自治体と連携した大和まほろば工業ゾーンの形成など、大和まほろばスマート IC や郡山 IC 周辺の産業集積の維持・向上
- リニア中央新幹線中間駅の積極的な提案と具体化を受けた時点における適切な土地利用の検討

## 第4章 施策の大綱

第4次総合計画基本計画においては、細分化された54施策により計画が構成されていました。

本計画においては、将来像及び基本目標の達成のために行政が取り組むべき施策分野を精査するとともに、本市の取り組む方向を市民等にわかりやすく伝えるため、「分野別施策」として16分野に取りまとめました。

また、上記の分野別施策を推進するにあたり、基盤として必要とする要素を「行政運営施策」として設定しています。

### 将来像

やまここおりやま

希望と誇りをつなぎ、新たな価値を生み出す元気城下町

### 基本目標

目標1 新たな価値やこれからの大和郡山の誇りにつながるまちづくり

目標2 みんなが過ごしたくなる安心できるまちづくり

目標3 まちが育んだ価値を知り、みんなが愛着を持ち、応援したくなるまちづくり

### 分野別施策

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
こども・子育て支援	教育・学校	健康・食育	地域福祉	高齢者支援	障害者支援	人権・男女共同参画	生涯学習	環境保全	観光	労働、産業振興	防災・減災、医療	生活安全	交通	文化財の保全・継承・活用	都市整備

### 行政運営施策

A 市民参画の推進

B 情報発信、相談体制の充実

C 健全な行財政運営